

2019年度東京農工大学連合農学研究科入学式

式 辞

東京農工大学連合農学研究科に入学された皆さん、おめでとうございます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。また、今まで支えてこられたご家族をはじめ、関係各位にも謹んでお慶びを申し上げます。

本年度、連合農学研究科の大学院生として新しく仲間入りするのは、生物生産科学専攻 17 名、応用生命科学専攻 6 名、環境資源共生科学専攻 9 名、農業環境工学専攻 6 名、農林共生社会科学専攻 4 名の合計 42 名で、この中には世界 3 カ国からの留学生 7 名が含まれています。皆さんは大学院でのこれからの研究生生活を通じ、様々なことを学び、研究を進展させるのみならず、たくさんの友人を作ってください。友人の中には大学院修了後も研究や仕事を通じて生涯の付き合いとなるひと出てくることでしょう。これからの社会でも人のネットワークは極めて重要です。キャンパスライフを満喫しながら、沢山の友人を作り、良い影響を与え合う関係を維持していくことを期待します。

さて、皆さんが専攻する農学には非常に広い研究分野が含まれています。現代社会は科学技術の発展とともに、環境、エネルギー、食糧、健康、安全・安心、災害など、地球規模の課題を多く抱えるようになりました。地球上で生物が共存できる環境の維持、安全な食糧の確保、われわれの暮らしを支える資源とエネルギーの確保、健康の維持などに関する諸問題の解決には、まさに皆さんが学ぶ「農学」が必要です。これから皆さんが学ぶこの連合農学研究科は、東京農工大学、茨城大学、宇都宮大学の三大学が連携し、各々の特性を活かしながら互いに補いつつ、国際色豊かで洗練された最前線の農学を研究するために創設されたものです。まさに、今日重要性が急増しているダイバーシティの概念がここにもあります。この特色ある組織によって、奥行きのある教育と、高い専門性の研究を展開しています。またそれを担う人材の育成のために、海外フィールド実習などを含むユニークなカリキュラムが充実しています。連合農学研究科の一員となった皆さん、皆さんもやはり今まで以上に主体性や自立心を求められることとなります。これまで答えが一つだった基礎学問を学んできた皆さんですが、これからは応用展開が中心の実学志向になるため、解の候補はいくつかあるかもしれません。あるいは最適解が無いかもしれません。先が見えない課題や難問に行き詰っても、皆さんは自分の力で解決していかなくてはなりません。ぜひ、過去の経験から導かれる解ではない、未来を見つめて得られる解を自分で導き出せるように本研究科でたくさんの経験を積んでください。皆さんが活躍する未来の社会は、農学の分野を含め、今後、驚異的なスピードで変化し続けてゆくことでしょう。皆さんは、その変化を追いかけるのではなく、さらなる変化を起こす者として、日本に留まらず世界で活躍し、社会を牽引していく力を身に付けて欲しいと思います。そのためには、研究者と

してのパスポートである博士学位が必須です。皆さんには溢れんばかりの将来性・可能性があります。皆さんの飛躍のため、本研究科で大いに学び、博士学位を取得して下さい。

最後に大切なことを申し添えます。学術研究は考えることが大切ですが、決して首から上だけで行うものではありません。高いモチベーションを維持して研究を推進するには強靱な精神力や忍耐力が必要です。また様々な実験などは体力も必要です。ぜひ健康な心と体を維持して下さい。そのためには様々なスポーツに汗を流すことも良いでしょう。本日、連合農学研究科に入学するにあたり掲げた高い目標や夢を忘れず、健康に十分留意して、実り多い大学生活を送ってください。我々教職員も皆さんを全力でサポートできるよう、あらゆる面で最大限の努力を続けてまいります。

本日、連合農学研究科へ入学された皆さんが大きく成長することを願い、また皆さんが本学の一員となることにあらためて歓迎の気持ちを伝え、式辞といたします。

2019年4月9日

東京農工大学長 大野 弘幸